

2018年11月15日 ネルケンCDコンサート

「みんなの嫌いなワーグナー」

先日、会社のOBが集まった際のこと。「渡部さん今でも音楽聞いてますか？私、このごろクラシックを聴いているんです。でもワーグナーは嫌いです。長いからね。」

この人、ほとんど聞かないのに音楽に関する知識はけっこう持っているという不思議な人でした。だから長いという知識で「門前払い」なのでしょう。

長いのは事実です。ただ私にとって長さは関係ないんです。ワーグナーは好きでも、4時間以上かかるものを家で聞くことはありません。いくら「老後」といってもけっこう忙しい。こんなことを言えばワーグナーファンに叱られてしまいますが、好きなところだけ「つまみ聞き」です。

ついでに言えば、私はワーグナーの聖地といわれるバイロイト歌劇場に行ったことがありません。さらに1967年大阪フェスティバルのバイロイト歌劇場引っ越し公演にもいかなかった。こんなないないづくしではワーグナー好きとは言えませんが、その程度の思い入れだからこそ皆さんにワーグナーの魅力を紹介できるのではないかと思いました。

今回は私の「つまみ聞き」する部分から2時間弱に圧縮したプログラムを作りました。

まず「トリスタンとイゾルデ」からいくつかのシーン。これは前にも後にも例のないほど濃厚な愛の音楽です。それだけでなく次の時代の音楽を開いた記念碑的な作品です。

「パルジファル」の前奏曲は神秘的で荘厳、これもワーグナーが晩年に到達した一つの世界です。

そしてドラマティックでかつ抒情的、まさにワーグナーの醍醐味ともいえる「ワルキューレ」のラストを聞きます。

それぞれの曲は長くても15分程度にしました。これでもワーグナーの魅力は十分に感じられると思います。この3つのワーグナーのうち、ひとつでも気に入ればもうワーグナーは好きだ！と言ってもいいでしょう。

世話人の高橋さんから、ワーグナーはたぶん初めてではと伺いました。きっと皆さんワーグナーは嫌いなのでしょう。出席者が少ないのではないかと心配ですが、2時間です。あと懇親会もあります。

ほの暗いネルケンに相応しい、重厚で抒情的な響きを期待してご参加ください。

渡部